

HIKARI

新しい未来へ



Ut filii lucis ambulate

新たに描く梅光学院の未来

期待の新校舎プロジェクト

生まれ変わる中学校・高等学校

特集

研究室を訪問／田中俊明教授

教員！芸人？！

卒業生たちの活躍

梅光生たちの学び



SPECIAL
INTERVIEW

学院長に就任して

学校法人 梅光学院

学院長・大学長 樋口 紀子

Noriko Higuchi

1982年、梅光女学院大学（現：梅光学院大学）
英米文学科を卒業。同大学院英米文学専攻修
士課程を修了。学院長・大学長を兼任する傍
ら、教会で牧師も務める。

創立146年を迎えて、 新たに描く梅光学院の未来



学生時代 吉津ゼミ



教員時代



海外でのボランティア

自主性・行動力・発信力を育てる学院を目指します。

恩師や友との絆、 人生の指針を得た「学び」の日々

卒業生の皆様、こんにちは。梅光学院で女性としても卒業生としても初めて、2012年に梅光学院大学の学長を、そして2017年に学院長を拝命いたしました。この歴史ある学院で学んだ一人として、まずは個人的な思い出からお話したいと思います。私が大学生生活を過ごしたのは、梅ヶ峠のキャンパスでした。自由な雰囲気、校風で、芝生の上でゼミの授業を受けたこと、「六角堂」というコーヒーストップで先生方や友人たちと語り合ったことを今でも懐かしく思い出します。「自分たちが大学を活性化しよう」と、学友会の活動にも力を入れていました。まずは大学祭を盛り上げることがきっかけになると思い、「講演会で、誰の話を聞きたいか」と学生アンケートを取ったのです。自分たちが3年間お金を貯めて、手紙を書き、学長や先生方のお力添えもいただいて、当時一番の人気だった作家の五木寛之さんにお越しいただきました。しかも「作家が専門ですから」と手弁当で来てくださったのです。講演は『夜と霧』を題材にし、人として「生きる」ことを考えさせて

くださった大変素晴らしいもので、後日、エッセイに「女子学生たちが歌で送ってくれた」と書いてくださったことにも感激しました。一生懸命に取り組めば、誰かが応えてくれると経験したことは、その後の人生を変える転機となりました。卒業後、アメリカ留学、海外でのボランティア活動や大学院進学を経て、教員として母校へ戻った後は、かつて私も先生方に導いていただいたように、学生たちのやりたいことを受け止め、力を引き出し、その想いや実現を支える教育に取り組んでいます。

学生たちの意欲や元気、 可能性を引き出す学院づくりを

このたび学院長を拝命したときには、「これからは幼稚園、中学校・高等学校、大学、大学院と学院全体をみるのだ」と責任の重さを感じました。まずは、幼稚園から大学院までどう連携して教育を行っていくかという全体の目線合わせから進めています。現在、最優先の課題となっている中学校・高等学校の生徒募集に対しては、豊富なご経験と幅広いネットワークをお持ちの校長を新たに迎えて、他校

にはない、新しいものを思いきって取り入れ、生徒たちを元気に、そして、学校を活性化する方向で進めています。また、学院全体として、先生と園児・生徒・学生たち（以下学生たち）の距離が近く、面倒見がいいことは素晴らしい校風だと思います。一方で、これからは「自立心」を育てることが大切な時代であり、特に社会から求められている「主体性」「行動力」「発信力」を身につけることができるような仕組みをつくるのが課題です。そのため、ここ数年は海外研修や留学、インターンシップ、実習等の充実、ワークショップやプロジェクト型の授業の導入などに力を入れてきました（⇒P.3）。こうしたさまざまな「体験」を通して自分で考え、積極的に行動することができるよう学生たちを育てること、多様な価値観に触れ、今までの固定観念が揺さぶられることによって視野の広い、かつ柔軟な考え方を持つ学生たちを育てることに全力を尽くしています。また、教員の意識改革や尽力はもちろん、学外からもさまざまな分野のプロフェッショナルな講師の方々をお招きして、学生たちの意欲や元気、可能性を多方面から引き出す学院づくりを目指しています。

大きな視点から 自分の人生を考えることを期待

もちろん「キリスト教信仰に基づく人格教育」を原点とすることに変わりはありません。
聖書の言葉を伝え、学生たちがそれを心に留めて、人生を歩んでいくことがこの学院の設立者、スタウト先生ご夫妻の願いです。学生たちには「あなたは神様に愛されて、生まれて育っているのだから、必ずあなたの生きる道があるのよ」と伝えられています。今も卒業生から届く就職や結婚の報告の手紙に「聖書にあった言葉に慰められました」

「あの一節に励まされました」と添えられるのを見ると、ミッションスクールで学んだことが、学生たちの心の中に確実に刻まれているのだと感じて、嬉しく思います。
また、大学では、学生の希望や想いを実現していくため、3年前から「学内ダブルスクール」を展開しています。「ANAエアラインスクール」と教育連携協定を締結し、現役のCAを講師としてお招きする「エアライン講座」や教員採用試験対策プログラム「教員の星」といったものです。3年次のキャリア教育の授業でも、就職に向けたサポート体制を強化しています。その中で、私たちは「こうなりたい」

という想いを支えていく一方、「神様は自分に何を望んでおられるのだろうか」、「他者や社会に対して自分は何ができるだろうか」というもっと大きな視点から学生たちが自分の人生を考えることを期待しています。自分が“やりたいこと”と“やるべきこと”が違うこともあるからです。自分にしかできない与えられた道があることがわかると、多少の困難や苦労があってもそれを乗り越え、喜びをもって生きていけるのではないのでしょうか。卒業してからもこれらの“問い”を大切にし、必要なときに必要なことをし続ける人であってほしいですね。
想いの実現とともに、使命を考えることが大切です。

想いの実現とともに、
使命を考えることが
大切です。

すべての関わりを 「点」から「線」へつなげたい

卒業生の皆様をお願いしたいことは、さまざまなことを学んでいる学生たちに対して「こんなサポートができます」というお声掛けをしていただくことです。たとえば、「起業の経験をお話ししよう」「私の会社で求人を出しましょう」といったご提案や、国内外でのボランティアや地域活動の情報のご提供も大歓迎です。
このたびの本誌の創刊を機に、卒業生の皆様と在

学生・在校生、私たち教職員が「点」から「線」へつながり、一緒になって10年後、50年後に向けた「より良い梅光学院」をつくっていければと強く願っています。そのために、これからは今まで以上に、ホームページや本誌などを通じて「梅光学院の今」をタイムリーに、広く発信してまいります。

想いを込めた光が さらに輝き未来を照らすように

2019年3月には、これからの梅光学院大学のシン

ボルとなる新校舎が東駅キャンパスに竣工します。これは大学開学50年の記念事業の一環です。校舎の至るところで交流が生まれることでコミュニケーションが活発になり、ガラスを多用することによって学びが可視化され、互いに刺激しあいながら学生たちが成長していきます。場所が“学び”を変えるのです。
梅光学院は146年の伝統を受け継ぎながら、さらなる飛躍を目指すために、学院全体で「新たな梅光学院」づくりに取り組んでまいります。どうぞ温かく見守っていただければと思います。



地域との協働による開かれた学院づくり

2015年度に下関市と包括協定を締結。市職員による授業や「まちづくり協議会」への政策アイデアの提供などの協働事業を行っています（やまぐち政策アイデアコンテストで入賞）。生涯学習セミナー「アルス梅光」、学生たちによる地域での「夏休み日本語教室」なども展開しています。



活用能力No.1へ、ICT教育の推進

施設内にWi-Fiを整備。中学校・高等学校では1人1台iPadを活用しており、大学ではMicrosoft Surfaceの導入で新入生のPC必携化を行っています。ペーパーレス化と同時に学生が課題を発見し、自分で調べ、解決案を提案するPBL型授業を推進しています。2019年度竣工の新校舎ではさらにICT活用を進めます。

BAIKO VISION — FOR 2020 —

梅光学院では“総合学園”としての発展と教育の充実のため、未来へ向けた「中長期計画」を策定して取り組みを進めています。



キリスト教信仰に基づく教育の推進

人として「生きる」ことを考え、「自分」を発見し、「他者」への理解や共感を育む環境は、ミッションスクールの強みです。大学では「ボランティア実習」を通して、カンボジアやネパールの貧困地域を訪問して、教育支援のあり方や大変な環境で生きる人々との共生について考える機会をつくっています。



日本全国をリードするグローバル教育の充実

海外語学・文化研修、インターンシップの推進で、大学が「短期留学の経験率」全国1位に※。中学校・高等学校ではニュージーランドへの3カ月の留学などに加えて、2018年度より「Wake-Up全員留学」をスタート。英語の4つの能力（「聴く」「話す」「読む」「書く」）を総合的に伸ばし、「使える英語力」を身につける教育を強化します。

※「THE世界大学ランキング日本版2017年」より（全学生に占める半年または1学期に満たない短期留学経験者の割合）。

梅光学院の 基本理念

{ スクールモットー } 光の子として歩みなさい

{ 建学の理念 } 強くしなやかな精神と、新しい世界を切り拓く能力を、他者のために用いることのできる人間を育てる。

{ 教育方針・ビジョン } キリスト教信仰に基づく人格教育を基盤とするミッションスクールとして教育・保育目標を掲げる。

本物の「学び」が 生まれる場所へ



Interview

学生、教職員、各分野の専門家と 夢や想いを語りあって新校舎を建設

2017年春、梅光学院大学の〈これからの50年〉に向けた改革の一環である新校舎建設のプロジェクトが幕を開けました。その設計を手掛けるのが、国内外で活躍する建築家の小堀哲夫氏です。「最初にお話をいただいたとき、チャレンジができる雰囲気を感じました。歴史があり、活気に満ちあふれた学院の雰囲気と学生たちの元気さ、「世界に自慢できる学びの場を創りたい」という先生方の熱意に惹かれました。「学生のために」という視点を徹底したチームの一員として、ぜひプロジェクトに参加したいと思ったのです。議論を重ねて、決定した新校舎のコンセプトは「学生の居場所をつくること」。そして「学生の自主的な学びを誘発すること」です。そのため、設計にはセミオープン考え方を採用しました。今回の建物でのセミオープンとは、空間を完全に仕切ることなく、フロア全体を「空間の連続体」としてゆるやかに連ねる手法です。廊下もない。仕切りもない。アクティブウォールと名付けた壁が空間を生み出すことで、すべての場所が“学生の居場所”になる仕掛けです。オープンかつフリーな空間で活発な動線と交流が生まれ、「自分で場所を選ぶ」ことで自主性や創造力が刺激されます。また、ガラス張りの教室は知的好奇心を高め、大学全体の学びの質の向上にもつながります」。

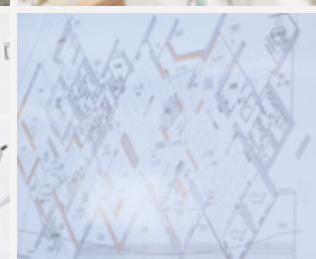
自分たちでつくるという当事者意識や場をどう使うかに対する責任感の共有が大事だと思い、ワークショップ開催を提案しました。もともと学生と先生の距離が近い校風もあり、毎回盛況で、学生たちの「自分たちも参加できる」という喜び、新校舎に対する期待感を感じました。あるべき姿を議論するうちに、学生も先生方も「なぜ梅光学院なのか」「なぜ入学したのか」「なぜ教員を目指したのか」といった原点に立ち返ることになりました。カフェテリアの書棚に先生方の蔵書を並べて研究分野や個性をオープンにして、学生と先生、先生同士の交流や対話を活性化するなど、夢や希望を反映したアイデアが新校舎建設のプロジェクトの土台となっていることは、建築家としても嬉しく思います」。

さらに、新校舎のコンセプトが「地域にひらかれたキャンパス」である点も見逃せません。「大学の敷地は、道路や体育館、公園に面しているという立地の特徴があります。将来的に、近隣の中学校や高等学校、地域の方々にも開かれた空間として、「こんなに面白い学びがあるのか」と感じてもらえる場となることが理想でしょう。「校舎」を越えて「街」になり、学生がさまざまな発見や体験ができる新校舎を目指しました。設計段階では、学生や教職員が一体となったワークショップも開催。ここでの意見や議論を踏まえて、学生が主体の「アクティブラーニング」を実現します。さらに、今までにないオープンで可変的な空間をどう使うかと考えることで、進化・成長を続けて「世界に自慢できる大学」を目指します」。

architect
建 築 家

小堀哲夫 Tetsuo Kobori

1971年生まれ。法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了後、久米設計に入社。2008年に(株)小堀哲夫建築設計事務所を設立。2014年より法政大学デザイン工学部建築学科 兼任講師。2008年日本建築学会作品選奨、2015年BCS賞、日本建築士会連合賞優秀賞、日事連建築賞国土交通大臣賞／2016年JIA日本建築大賞／2017年日本建築学会賞作品賞、日本建築学会作品選奨と受賞多数。



“世界に自慢できる大学”をつくる

2019年春、梅光学院大学に新校舎が誕生します。

伝統と理念を継承しながら、未来へ歩き出した建設プロジェクトの概要をご紹介します。



新校舎コンセプト

交流を増やす

アクティブウォールの展開で「廊下」「教室」など境目のないオープンなワンフロア空間をつくります。ジグザグ型の空間配置で外と中を自在に出入りできる流動的な動線を生むことで、人と人の多様な交流を実現します。



学びの可視化

教室をガラス張りにすることで「魅せる授業」を実現し、刺激し合い、授業の質や大学の価値向上を目指します。また、間仕切り可変システムを導入することで、さまざまに変化する授業形式に対応します。



環境との交わり

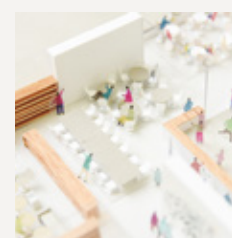
自然の光や風の流れを取り込み、室内のさまざまな活動領域と重ねあわせることで、多様な環境を生み出します。新校舎の隣には緑豊かなセントラルパークを拡張し、活動の拠点や憩いの空間として開放することを考えています。

{ 新校舎施設紹介 } 3階建ての新校舎は、学生や教職員が自在に活用できるフレキシブルな空間が充実しています。

1階は、カフェ、ライブラリー、教職員のオフィスが仕切られることなくワンフロアに展開するオープンスペースです。フリーアドレス制を採用し、さまざまな活動が隣り合い、学生、教員、職員が多様に交流できる設計です。アクティブウォールはホワイトボードやスクリーンにも使える仕様となっています。



カフェライブラリーオフィス



カフェを含むフロア全体が教職員のフリーアドレスオフィスとなり、大学での新しい働き方をつくります。壁面には教員たちの本がディスプレイされ、学生のより多くの出会いの機会を創出します。

アクティブスポット



緩やかに仕切られ、またつながり合うアクティブスポットと呼ばれる場所が集まったラーニングcommonsとなります。多様な活動が見え隠れしながらつながっていき、さまざまな居場所や体験をもつ学びの場所をつくっていきます。

吹き抜けのコミュニティ



上下階とつながる開放的な空間に、「交流の場」となる語学センターやラウンジを配置します。多くの出会いが生まれることを期待しています。

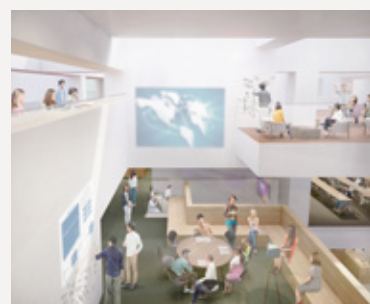
「アクティブラーニング」の実現で、 ＜これからの50年＞に向けて進化・成長を続ける校舎へ

新校舎建設のプロジェクトで力を入れるのは「アクティブラーニング」の実現です。

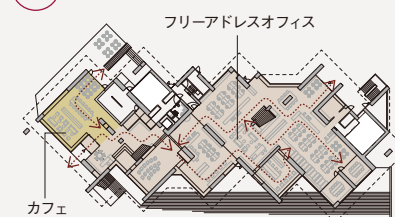
刻々と変化する社会で、これからは一人ひとりが独自の答えを導き出す時代であり、＜これからの50年＞を考えると、「教わる学び」から「自主的な学び」への意識改革が必要です。設計段階では「居場所」を多くつくることで人を集め、「出会いや交流」が生まれる環境をつくり、風や光など「自然」

を取り込み、学生がさまざまな発見や体験ができる新校舎を目指しました。

学生や教職員が一体となったワークショップも開催。また、ここでの意見や議論を踏まえて、学生が主体の「アクティブラーニング」を実現します。さらに、今までにないオープンで可変的な空間をどう使うかと考えることで、進化・成長を続けて「世界に自慢できる大学」を目指します。

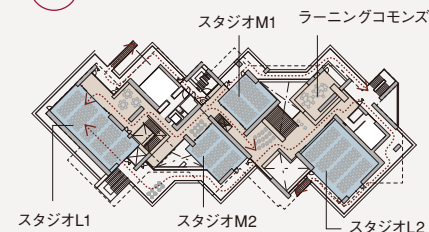


①F ゾーニング



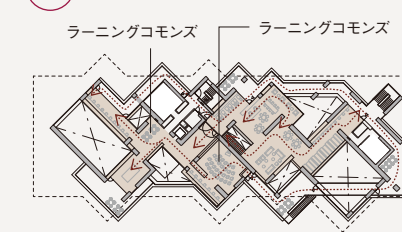
1階は、学生・教職員・地域住民の交流拠点となるカフェライブラリーと、教職員の新しい働き方をつくるフリーアドレスオフィスが配置されています。フロア全体に教員たちの本がディスプレイされ、学生たちの学びの好奇心を刺激する場所として計画します。

②F ゾーニング



2階は大小のガラス張りのスタジオが4室配置され、その間のジグザグな空間が自習スペースやディスカッションスペースから成るラーニングcommonsとなります。

③F ゾーニング



3階は、フロア全体がラーニングcommonsの場所となります。語学センター、映像コーナー、自習スペースなどが緩やかに仕切られ、またつながりながら、多様な学びの場所をつくっていきます。

※掲載内容は2017年9月現在の予定であり、実際の校舎・用途とは異なる場合があります。

生まれ変わる 学校の「今」

梅光学院中学校・高等学校

校長 島田 清

Kiyoshi Shimada

1953年、北九州市生まれ。公立中学校での独創性あふれる学校運営が全国紙やテレビ番組で取り上げられ、話題を集める。著書に『イベント校長の学校再生！』（講談社）。

—梅光学院との出会いを教えてください。

最初は、学校改革のアドバイザーとして依頼をいただきました。私の経験がお役に立てるなら協力しようとお引き受けしたのです。2016年の9月でしたね。

—ずいぶん違う展開になりましたね。

何度か訪問して、学校の現状や課題を伺う中で、校長就任の話が出たのです。「厳しい状況を打開して、本当にいい学校をつくりたい」という想いを感じました。初めは、一度教育現場を離れた身ですので、再び現場に立つことに躊躇しました。しかし、先生方の力も借りながら、私が長年行ってきた「本物体験」(⇒P.11)を取り入れ、生徒たちが元気になり、先生方が意欲をもち、保護者と一緒に学校運営を目指すというかたちであれば、と心を決めました。

「本物体験」を
きっかけに、
「可能性」を
大きく広げていく



—学校運営が難しい時代といわれていますが。

そうですね。第一に、社会全体で生徒の数が減っている中、志願者を集めるには「新しい魅力」が必要です。第二に、いい学校をつくるには保護者や地域の方々との連携も必要ですが、社会や家庭の環境が多様化・複雑化して、地域コミュニティも縮小の一途をたどる中、その絆を築くのは容易ではありません。「これから厳しい壁を越えるのだ」と思いました。

—長期展望もスピードが求められますね。

今までは、新しい学校へ赴任すると半年は実態を見て、次の半年で次年度の計画を立ててきました。しかし、それでは間に合わないの、先生方と意見交換する前からさまざまな提案を行っています。生徒たちのために校内で協力を得ながら、進めている状況です。

—どこから手を付けるかという優先順位は？

今いる生徒たちをいかに元気づけるかが初めに取り組むべきことだと思いました。生徒たちがいきいきと活動する姿が見えると保護者も安心されますし、「学校が変わりつつある」ことをみんなが感じられます。

—それが、6月の体育祭と集団行動だったのですね。

目に見える生徒たちの変化と即効性を考えたとき、中長期ビジョンにある「スポーツ文化の定着」が重要であると思いました。具体化する方法として、バツと思いつくんだものが大きな話題を呼んだ「集団行動」(⇒P.11)です。私の先輩を通じて、指導者である日本体育大学名誉

生徒たちが
いきいきと
過ごせるように



教授の清原伸彦先生にご相談したところ、「力になりましょう」と引き受けていただきました。

—生徒たちの反応はいかがでしたか？

盛り上がりましたね。最初に全校生徒の前で「今年の体育祭は、先生たちは手を出さない。企画、プログラム、練習から当日の運営まですべて皆さんに任せたい」と宣言しました。「ただし、全校生徒で集団行動をさせてくれ」と話したのです。清原先生より指導を受けられると知って、生徒たちの反応は良かったですね。もちろん反発もありました。また、「厳しい指導があるのでは」という心配や苦情の声もありました。しかし、リスクは承知の上です。「体験してみればわかる」「きつと、君たちのためになるから」と話して、背中を押しました。



きっかけを大切に
元氣、意欲、活気を
引き出していく

祭当日は素晴らしいかったですね。生徒たちの姿を見た保護者からも「去年と違う!」と拍手や歓声がやみませんでした。生徒たちには、きっかけが大切なのです。「この人のこの指導は本物か」というのは、生徒たちが一番感じます。今までは「なんちゃって体育祭」と揶揄していたようですが、本気で頑張った時の喜びを感じたのではないのでしょうか。元氣、意欲、活気を引き出していく起爆剤として、非常にいいスタートを切れたと思います。

—新しくスタートする留学制度についても教えてください。

「Wake-Up全員留学」(⇒P.11)を来年の教育課程に導入しました。入学後すぐ、中学1年生はカナダ・バンクーバーで2週間、高校1年生はフィリピン・イロイロで3週間の留学を行います。最初に提案したのは、入学式が終わると、そのまま貸切バスで空港へ行くというもの。さすがにそれは反対されましたが、何年か経って留学する以上に、最初に海外を知る、英語に触れる、自分の感覚・視野を広げることが、学び

への意欲を高めると考えました。

—日本全国でも画期的な取り組みですね。

小学校や中学校を卒業したばかりで、入学早々に親元を離れることや、治安への不安など、賛否両論はあるでしょう。しかし、他校と差別化して生き残るには、それくらい思いきった手を打つことが必要だと思います。教育課程の中で行いますので全員参加です。また、夏休みなどを利用した、中国や韓国、台湾などアジアの国々への研修も行っています。

—志願者数の増加に向けた、他の取り組みは?

まずは出口となる進路に向けて、課外授業や補習の充実、資格取得に力を入れます。中高一貫教育を生かした先取りの授業で、高校3年生の早い時期から演習問題や入試対策を行うことで、全国の有名・難関大学や海外の大学への進学実績を伸ばします。

—部活動の魅力づくりも欠かせませんね。

男子生徒の募集には運動部の充実も大切です。2016年には中学校・高等学校で共通の男女サッカー部が誕生しました。テニスや卓球、バドミントンなど個人競技の活性化も考えています。また、本校には素晴らしい文化部の活動があります。合唱、吹奏楽、ハンドベル、ミュージカル、演劇など、「音楽の梅光」としての伝統も大事にしながら、さらに新しい展開を目指していきます。

—こころの教育についてはどうお考えですか。

本校の建学の精神は不滅です。変わることはありません。赴任後、全校生徒での毎日の礼拝は心を落ち着けて一日をスタートする意味で大変良い伝統と感じました。また、公立学校では難しさを感じた道德教育も、本校では「生活を通して聖書の教えを考える」「自分を愛し、他人を愛する」という「よりどころ」がしっかりしています。これはとても大きなことです。今からの生徒たちは、非常に不透明な時代へ出ていきます。知識を身につけるだけでなく、バランスの取れた人格の形成が必要です。とくに、相手を受

け入れ、理解して、付き合っていくコミュニケーション能力は、社会で一番求められているものです。

—そこで新たな取り組みを始められたのですね。

そうです。ドラマの手法(⇒下記)を使った、コミュニケーション能力を育成する授業を始めました。イギリスでは、教科のひとつになっています。ドラマの手法を使って相手の気持ちを引き出したり、受け入れたり、自分の気持ちを前に出していく人間教育です。

—卒業生の皆様へメッセージをお願いします。

本学院は140数年の歴史があり、地域の方々も含めて、期待や思い入れの大きさを感じます。一方で、なかなか学校の実態がみえないために、ご心配も多いと想像します。今後は学校の今の本当の姿、取り組みを積極的に発信していきます。2017年は、新しい学校づくりのスタートという節目の年です。「自分たちが育った梅光学院がさらにいい学校になった」という運営を目指します。ぜひ温かく見守り、忌憚ないご意見やご協力もいただけると嬉しく思います。

「梅光の伝統」を
発展させて
さらにいい学校へ



梅光学院中学校・高等学校の新しい取り組み

[本物体験]

学校も国境も越えてさまざまな「本物体験」を実施。台本もセリフも即興でつくるドラマの授業では「想像力」や「伝える力」が磨かれます。



[集団行動]

生徒手づくりの体育祭では、やり遂げた自信と充実感に満ち溢れ、清原先生の「来年も会おうね」の言葉に、生徒たちは歓喜の声を上げました。



[Wake-Up全員留学]

テレビCMでも話題! 英語力を高め、異文化体験で国際感覚を磨き、学校生活をともにする仲間との絆も深めます。(2018年度より開始)



[制服一新]

建学の精神を大切に守りながら、グローバル化に対応した制服を導入。「新しい梅光学院中学校・高等学校」のシンボルの一つとして広く発信します。(2018年度より開始)



「あの頃」を語ります。

社会で活躍する卒業生が

「実り多き学び」から教員の道へ

梅光へ進学した理由は？

「古語や漢語より英語の辞典を引く方が好き」と英米文学科のある梅光女学院大学(現:梅光学院大学)への進学を決めました。初めて受けた外国人の先生の授業では、英語が全く理解できずショックでした。映画スターのような先生とドキドキしながらお話ししたことも懐かしいです。



大学時代 ゼミ集合写真

大学時代の思い出の場所といえば？

先生に勧められて入部した「セシル・コール」(女声

合唱部)の活動で、毎日のように放課後を過ごした音楽室です。モーツァルトの『レクイエム』に挑戦するなど、好きな歌が歌える大好きな場所でした。本を見て回っただけで心が落ち着く図書館にもよく通いました。閲覧室に座り、広い窓から眺める梅ヶ峠の景色が好きでした。喫茶室の「六角堂」も思い出に残っています。ピザ・トーストとライム・ジュースがお気に入りでした。

今でも記憶に残る出会いは？

さまざまな学びとの出会いです。一般教養の授業では、夏目漱石の『三四郎』や堀辰雄の『菜穂子』についてミニ作品論を書き、文学に目覚めました。卒業論文では、先生のアドバイスを受けながら、シェイクスピアの大作『ハムレット』の作品論を、精一杯書き上げたことが自信となりました。一番の出会い、教壇に立って子どもたちと、ともに過ごした2週間の教育実習です。楽しく、充実したこの教育実習が、教員への道を歩む原点となりました。

今後、実現したい「夢」は？

中学校の教頭として、勉強の得意・不得意にかかわらず「授業で学ぶことが楽しいから、学校が好きだ」といった生徒を増やし、確かな学力をつけるための授業改善を行うことです。生徒のために、「チーム学校」として教職員が組織の中で動くように取り組んでいます。大学時代に、「一斉授業で教える難しさ」と、勉強を教えるにはまず子どもとの人間関係・信頼関係を築く大切さの両方を学べたことが、今の原動力となっています。これも、実り多き大学時代を過ごせたことによるものと、心から感謝しています。



北九州市立 東郷中学校
教頭 赤瀬 祐子さん

1982年 卒業生
梅光女学院大学(現:梅光学院大学)
文学部英米文学科

後輩へのアドバイスは「専門分野の学問を追究し、趣味や得意なことも楽しみ、卒業後を見据えて今できること、今しかできないことを実行すること」。



「たくさんの出会い」が今につながっている。

梅光へ進学した理由は？

二人とも、小学校の教員になることを目指して梅光学院大学へ進学しました。一方、高校時代にM-1甲子園の福岡大会で優勝し、芸人になるか迷っていた中での進学でもありました。



大学時代の思い出といえば？

(上野)ピアノの授業でかなり鍛えられました。また、

こう見えて読書好きなので、静かに好きな本を読む図書館がお気に入りでした。

(土居)絵本の読み聞かせの授業で、絵本は読むだけでなく、「心を動かすことが大切」と学んだことです。また、よさこいダンス部の仲間とボランティア活動で施設を訪問したり、中庭で友達とふざけあったことも思い出です。

今でも記憶に残る出会いは？

(上野)教員ではなく芸人になろうと決めたときに、応援してくれた先生です。先生とは今も連絡を取っていて、応援していただいています。大学でたくさんの人と出会えたことで、人と人との関わり方を学ぶことができました。

(土居)教育実習で出会った子どもたちです。わかりやすい話し方や優しい接し方について、考える機会となりました。また、「忙しいは「心」を「亡くす」と書くから、忙しい時ほど落ち着きなさい」という先輩からの言葉は忘れられません。

今後、実現したい「夢」は？

(上野)アットホームな梅光の校風のように、みんなに「あいつ、いい奴だな」と思ってもらえる芸人になりたいです。また、小学校から大学までサッカー部に所属していたので、将来はサッカーに関わる仕事がしたいとも考えています！街で「土居上野」を見かけたら、是非気軽に声をかけてください！

(土居)地元を忘れず、赤ちゃんから高齢の方まで、誰からも愛される優しい芸人になりたいです。「土居上野」で梅光学院大学の大学祭にゲストとして参加できたときは、少しでも恩返しができたと嬉しく思いました。何より、お互いに助け合う一生の出会いをくれた梅光学院大学が、僕は大好きです！



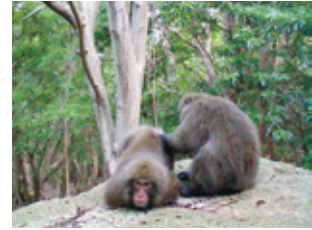
自然 × 人間

Natural Entry Training

“生”きる力へ 驚きや感動を通じて

豊かな心と、たくましさ
未来の先生たちへ届けたい

子ども学部の専任教員として、野外活動を中心とした授業が多くの学生に人気の田中教授。マダガスカル、インドネシア、下北半島、屋久島…。世界を飛び回り「サル行動からヒトの心理の起源を探る研究」に取り組みながら、学生にさまざまな体験を与えています。「栃木県の田舎で、生粋の“川少年”として育ちました。ヤマメやカジカ、アユやウグイを捕まえては、河原の石で作ったかまどで焼いて食べました。伏流水が湧く池があって、ヤツメウナギやゲンゴロウとも遊びましたね」。大学時代も“自然が先生”は変わらず、心理学のほかに動物行動学や人類学へ興味を広げ、尾瀬や四万十川、積丹半島へ。海外の自然にも出かけて、運命の出会いに導かれたそうです。「アフリカを旅行中に、ルワンダでマウンテンゴリラを観察したのです。30頭を超える大きな群れ、すぐ目の前でゴリラたちが生きて動く姿に感動して、サルを研究テーマに決めました。学ぶとは、世界の見方が変わることに、世界に新しい意味を発見することです。学生の五感を開放するため、授業では野外に出て「自分の足で歩き、自分の目で見て、自分の頭で考えること」を大切に教えています」。



【FIELD】屋久島

2年に一度、世界遺産である屋久島で「自然参入実習Ⅱ」（3泊4日）を実施。森を歩き、固有の植物や野生のサル、シカの観察を行い、宮之浦岳（標高1936m）の登頂を目指します。「屋久島は、亜熱帯から冷温帯まで多様な自然が凝縮して「みんなちがって、みんないい」を体感できる場所。千年万年という時の流れ、自然の営みにおける生と死も感じられます。自然への驚きや感動とともに、「自分は生きている」と感じ、生きるちからも身につく体験です」。



【FIELD】下関

普段の授業では、自然豊かなキャンパス環境も活用。大学構内の動植物を調べて作成した“環境マップ”をもとに保育指導案を考えたり、木屋川周辺で「世界に2000羽」といわれる絶滅危惧種のクロツラヘラサギなどの冬鳥を観察するなど、充実の内容です。「大学所有の梅ヶ峰の森（約5万㎡）も、歴代のゼミ生たちと歩道や広場を作って整備しました。地域の子育て支援団体や企業、小学校などと連携して、さまざまな自然学習や野外体験を企画・実行しています」。



田中 俊明 教授

Toshiaki Tanaka

学位：博士（心理学）

担当科目：「心理学概論」「自然と環境」など

主な研究：「ヒトを含む霊長類の比較行動研究」
「ニホンザルの保護管理」

【梅光学院の好きなところ】

学生と教員の距離の近さ、人間味のある校風です。

【卒業生へ伝えたいこと】

まごころを尽くして、精一杯に生きてさえいれば、人生なにがあっても怖くはありません。



梅光学院 監事
梶田行雄
Yukio Kajita

1950年生まれ。関西学院大学法学部卒業。
関西学院大学入試部次長、法人部長、事務
局長、常務理事を経て、2016年度から梅光
学院監事。

入学者の安定的確保が不可欠

昨今、進学人口の減少に対し、トータルとしての入学定員は高止まりしています。とくに私立大学を巡る需要と供給の関係はバランスを欠き、定員を確保できないために赤字が生じている学校法人は「地方」の「中小規模校」に集中している現実があります。

梅光学院大学も、この「地方」「中小規模校」に当てはまりますが、ここ数年の改革が功を奏し、2年連続で募集定員を上回る新入生が入学してくれました。学院の喫緊の課題である財政状況の改善や今後の安定的な財政基盤の確立のためには、学生を安定的に確保することが不可欠です。今後とも定員確保に向けてさまざまな改革への取り組みが重要となっています。

守るものと、変わるべきもの

私は、学院が創立以来堅持してきた「キリスト教の信仰に基づく人格教育」を継承していくことが大切であると考えます。また、外国語教育の充実や、高

い留学率に見られる国際性、社会に貢献するボランティア活動なども、ミッションスクールとして今後も守られるべき学院の特色です。同時に、創立の理念を大切に守りつつイノベーションを起こすことが重要です。改革には、痛みをともなうこともありますが、「変わるべきであることを変えよう」としないことは問題です。必要なことは、生徒・学生のための学院づくりです。

事務職員の一層の活躍

経営改革の成否は事務職員の力による部分も大きく、全国紙の大学ランキングでも「事務職員ランキング」が掲載される時代です。大学では、事務職員に求められる視点は学生のための大学づくりであり、どのような業務も一番に考えるべきは「学生のためになるか」です。これに「大学の発展につながるか」「社会に説明できるか」を加えて、3つの判断基準で業務に当たる必要があります。大学が置かれている外部環境や財務構造を理解し、組織全体を俯瞰して常に現状に問題意識を持ち、イノベーションを起こす意識が求められています。

コンプライアンス体制の強化

学院では、高い倫理観が求められる教育機関として、「コンプライアンス体制」の強化にも取り組んでいます。内部統制は監査法人による「財務監査」「監事監査」「内部監査」で実施されます。私は監事として、内部統制に努めるとともにこれまでの経験を生かし、梅光学院にふさわしいコンプライアンス遵守を担保する手法を考える必要があります。創立以来の理念を実現するため、学院は時代に適合して変化していかなければなりません。卒業生の皆様には、ぜひ温かく見守っていただき、今後とも変わらぬご支援を賜ることをお願いするとともに、益々のご活躍を祈念しております。



梅光生たちの学び

たくさんの可能性と才能を秘めた梅光学院の園児・生徒・学生たちは、
学院で人生の大切な時間を過ごし、成長しています。

{ 梅光学院幼稚園…P17 }

{ 梅光学院中学校・高等学校…P18 }

{ 梅光学院大学…P19 }

梅光学院幼稚園 BAIKO GAKUIN KINDERGARTEN



「愛されて育つ」 ～子どもの自主性を養うために～

子どもたちが無心に遊ぶ姿を、園内のあちこちで見ることができます。「愛されている」実感を持ち、自分の居場所に憩う子どもたち。“こども会議”で互いに意思を伝え、話し合い、力を合わせてお泊り保育を経験した年長児。園外へ出かけて水と戯れ、川遊びを体験した年中児。“英語”との新しい出会いに、正座して聴き入る年少児。「キリスト教信仰に基づく保育」「遊びを中心とした保育」「柔軟性のある世界観を養う保育」の3本柱を礎として、これからも喜びに満ちた幼稚園でありたいと願っています。



(上)川遊びを体験する年中児。(左)初めて英語に出会い、夢中で聴き入る年少児。(右)お泊り保育で、自分たちより大きくなったとうもろこしを収穫する年長児。

梅光学院中学校・高等学校

BAIKO GAKUIN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL



さまざまな「本物体験」で “生きる力”を育成

体育祭では、日本体育大学名誉教授の清原伸彦先生と現役学生の指導による集団行動を通して、相手を気遣う心を学び、見事なパフォーマンスを演じました。夏休みに参加した、韓国での美術・音楽交流では、「近くて近い」韓国を実感することができました。日常の授業では、ドラマの手法を用いたコミュニケーション能力の育成にも取り組んでいます。また、来春から新1年生を対象に「Wake-Up全員留学」がスタート（⇒P.11）。これからも“生きる力”を育む教育プログラムを展開していきます。



韓国・釜山の児童養護施設のオーケストラと交流する合唱部。



清原先生や現役学生の指導にいきいきとした表情をみせる生徒たち。

梅光学院大学

BAIKO GAKUIN UNIVERSITY



「THE 世界大学ランキング 日本版」で 全国1位に^{※1}

英国の高等教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）」が発表する「THE 世界大学ランキング 日本版」（2017年度）にて、短期留学経験者の割合の高い大学で全国1位、国際性で全国22位（中四国の私立大学で1位）にランキングされました。「留学ホーダイ」^{※2}などの多彩な取り組みを通して、「強くしなやかな精神と、新しい世界を切り拓く能力を、他者のために用いることのできる人間を育てる」という理念を実践し、地域・世界で活躍する人財を輩出しています。



^{※3} 希望者全員が参加可能な「留学ホーダイ」。多くの学生に海外で学び、異文化に触れる機会を提供。

※1 「THE世界大学ランキング日本版2017年」より（全学生に占める半年または1学期に満たない短期留学経験者の割合）。

※2 「留学ホーダイ」とは、参加可能なコース選択等の自由度を指すものであり、追加料金なしで何度も留学できることを意味するものではありません。

※3 1st step・2nd stepにおいて。

卒業生たちの 活躍 activities

BAIKO GAKUIN HIGH SCHOOL

山口大学農学部 生物資源環境科学科
末廣 春香さん



Q.進路を決めた理由は？

農作物の栽培から流通まで広く学べて、羊や鹿など有蹄類の生態研究もできることから山口大学農学部へ進学しました。将来は野生動物の保護を行い、人と野生動物が共存できる環境づくりに挑戦したいと思います。

Q.高校時代の思い出は？

人の心に寄り添う大切さなど多くを学んだ東北ボランティアや軽音楽部で仲間と活動した

ことです。大学でも軽音楽サークルに入っています。

Q.記憶に残る出会いは？

わかりやすい授業、小論文の丁寧な指導をしていただいた先生との出会いです。また、先生のアドバイスで、将来やりたいことがはっきりしました。

Q.あなたが目指す光は？

キリスト教の教えは、今も心に残っています。授業や聖書、礼拝を通して「相手の立場に立って考えること」「見返りを

求めずに尽くすこと」の大切さを学びました。これからどんな状況においても、相手思いやる心と感謝を忘れず、相手を包み込む暖かい光になりたいです。

思い出の一枚



2016年度 高等学校進路実績

国際基督教大学、明治学院大学、関西学院大学、東京女子大学、フェリス学院大学、山口大学、北九州市立大学、下関市立大学、愛知県立芸術大学、神戸学院大学、川崎医科大学、大阪総合保育大学、京都産業大学、広島国際大学、西日本工業大学、西南学院大学、聖マリア学院大学、宇部フロンティア大学、甲南女子大学、神戸学院大学、西南学院大学、洗足学園音楽大学、九州産業大学、九州共立大学、梅光学院大学、西南学院大学短期大学部 他

※2017年3月卒業生および過年度生



思い出の一枚

Q.進路を決めた理由は？

5歳頃から10年間通った英会話スクールの先生に憧れ、教員の道を目指して進学しました。留学制度や英語教育の充実した環境が魅力でした。

Q.高校時代の思い出は？

体育祭で先輩や後輩と応援団として頑張ったことや茶道部で世界スカウトジャンボリーに参加して、日本文化を海外の方に伝えたことです。修学旅行では東日本大震災の被災地を訪れました。そして、現状を目の当たりにして、ボランティアへの関心が高まりました。今でもサマリア募金などでボランティアに関わっていることを嬉しく思います。

Q.記憶に残る出会いは？

ときに厳しく、ときに一緒に楽しめ、生徒に寄り添ってくださった担任の先生が大好きでした。茶道部顧問の先生からも多くを学びました。

Q.あなたが目指す光は？

子どもたちの心に英語の楽しさを伝えることのできる光になりたいと思います。中学校から梅光で学んで7年目、私の夢は一層光り輝いています。

梅光学院大学文学部人文学科英語コミュニケーション専攻
倉本 桃佳さん



BAIKO GAKUIN UNIVERSITY

株式会社スタッフライヤー
大和 明日香さん



Q.進路を決めた理由は？

お客様満足度が高く、挑戦心溢れるところに惹かれました。安全の確保と細やかな気配りを意識して、一便一便を大切に業務しています。

Q.大学時代の思い出は？

セブ島とオーストラリアへの留学です。慣れない環境で体力的にも大変でしたが、毎日自習を欠かさず、帰国後はTOEIC®で自己最高点を取得できました。ANAエアラインスクールで、仕事研究を行いサービスの姿勢を学べたことも良かったです。入社後、英語での訓練やさまざまな研修も臆さずに取り組みました。

Q.記憶に残る出会いは？

英語漬けにくださった留学先の先生方、学内のネイティブの先生方です。授業以外でもたくさんコミュニケーションができて嬉しかったです。

Q.あなたが目指す光は？

お客様や社会に貢献できる光です。2020年のオリンピックでは外国のお客様に「また日本に来たい」と思われる最高のおもてなしを目指します。

仕事中的一枚



BAIKO GAKUIN UNIVERSITY

山口県小学校教員
村田 峻さん



Q.進路を決めた理由は？

大学1年生のときの、フィールドワークの授業での子どもたちとの出会いがきっかけです。「子どもたちの成長をそばで支えていきたい!」と思いました。

Q.大学時代の思い出は？

留学を通して苦手な英語を克服できたことです。ボランティア活動や教育実習での多彩な出会いも、多くの人と関わる

教員の仕事に役立っています。

Q.記憶に残る出会いは？

教員採用試験合格に向けて、何度も面接指導や模擬授業に付き合ってくれた先生方、朝から晩まで一緒に勉強して励まし合った仲間です。

Q.あなたが目指す光は？

教育現場では、学生時代に学んだ諸外国の教育課題、さまざまな現場の先生方の指導法などが役に立っています。

初心を忘れず、理想の教育を目指して「今日より明日、明日より明後日…」と成長していきたいと思います。子どもたちの不安や学校での障害を取り除き、一人ひとりに「夢」を与えてあげられる光になりたいです。

仕事中的一枚



2016年度 大学就職実績

三井住友銀行、楽天銀行、西中国信用金庫、三井住友海上火災保険、楽天カード、第一生命保険、日本生命保険、日本郵便、スターフライヤー、アジアナ航空、ANA福岡空港、Kスカイ、サンデン交通、エイチ・アイ・エス、ニトリ、下関農業協同組合、山口県警察、福岡県警察、光市役所、ニューオータニ九州、大谷山荘、リーガロイヤルホテル小倉、プリンスホテル、ユニー・ファミリーマートホールディングス、エストラスト、セキスイハイム九州、大阪府内公立高等学校(国語)、福岡県内公立中学校(国語)、北九州市立高等学校(英語)、福岡県内公立小学校、山口県内公立小学校、福岡市立小学校、北九州市立小学校、佐賀県内公立小学校、下関市立幼稚園、下関市立保育園、宇部市立保育園、北九州市立保育園、宮若市立図書館(司書)、下関市立豊田図書館(司書)、周南市立熊毛図書館(司書) 他

※臨採含む ※2017年4月現在

入場料
無料BAIKO GAKUIN
HOME COMING DAY

開催日 11月11日(土)



同窓生交流会

【開催時間】13:00-14:30

梅光学院大学の卒業生であれば、どなたでもご参加いただける茶話会です。今の梅光学院の取り組みをご紹介します。また、当時の先生方を数名お招きし、同窓生との交流の時間を設けています。

※交流会は出入り自由です。
ご都合の良い時間にお越しください。

大学開学50年記念イベント
ハンドベルOGコンサート

【開催時間】10:00-11:30



当日は大学祭も開催しています。和太鼓部演奏、ダンス、書道部パフォーマンス、よさこい演舞など、大学生の活躍もぜひご覧ください。

後輩の未来のためのご寄附にご協力ください。

皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。現在、皆様が学ばれた梅光学院では、建学の理念である「強くしなやかな精神と、新しい世界を切り拓く能力を、他者のために用いることのできる人間を育てる」の実践に向けて、さまざまなきめ細かい教育を行っております。こうした中、梅光学院では、生徒・学生の活動支援の拡充を目指して、募金活動を行っております。ご寄附の使途に関しまして、国内外での生徒・学生の教育、学習及び生活に関する支援の充実を図る事業等を対象とさせていただくものであり、これら事業を通じて、地域、そして世界で活躍できる人材の育成に努めてまいります。また、本募金は、卒業生の皆様、在学生・在校生、学院の相互の関係を一層強めるとともに、新たな学院の寄附文化の醸成を図ることを目指すものです。昨今の厳しい社会情勢のもと、誠に恐縮には存じますが、何とぞ本学の意をご賢察くださり、募金活動にご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

梅光学院 学院長 樋口 紀子

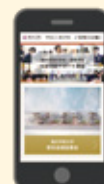
このたび、パソコンやスマートフォンでご利用いただける、インターネット寄附金サイトを開設いたしました。

(クレジットカード決済のみご利用可能)

【URL】

<https://www.baiko.ac.jp/donation>

QRコードは
こちら



編集後記

継承とイノベーションを心ひとつに

このたび、これまでの学院報を全面的に見直し、大幅にリニューアルを行いました。同時に、学院各校の卒業生に配布することにしました。もちろん、学院や各校のホームページでも見るができます。学院は、現役の園児、生徒、学生と保護者はもちろん卒業生を採用していただいている企業や学校、地域の皆様、地方自治体などさまざまな方々によって支えられています。この学院報が、こうした方々に学院の現在

と未来についていきいきとお伝えすることができるよう編集スタッフ一同全力を挙げていきます。本誌に関する皆様方のご意見や卒業生の活躍ぶりなどの情報の提供なども大歓迎です。学院では、大学東館の建て替え計画や中学校・高等学校での入学直後の「Wake-Up全員留学」など新たな未来に向かって大きな歩みを始めています。今後とも学院の動きにご注目ください！



学校法人 梅光学院
理事長 本間 政雄

